2027年3月期　第2四半期(中間期) 決算説明会
(2026年4月-2026年9月)

2026年11月13日

Contents

01 2027年3月期 第2四半期 （中間期） 連結決算概要

02 2027年3月期 業績予想

03 Appendix

用語の定義

用語の定義

- H1：中間期（4月～９月）
- ▲が付いた数字はマイナス
- 地域セグメントの「アメリカ」は北米・南米を含む米州
- 「米国」は北米
- QTP：クオリテックファーマ社の略称
- 天藤：天藤製薬
- EYS： Eu Yan Sang International Ltd.
- モノ社：Mono chem-pharm Produkte GmbH
- ハイドロックス社：Hydrox Laboratories, Inc.
- ダクス社：DAX Cosmetics Sp. z o.o.
- オフサルモス社：Ophthalmos S.A.

2027年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算概要
(2026年4月-2026年9月)

副社長 兼 CFO | 斉藤 雅也

2027年3月期 第2四半期(中間期：H1) 決算のポイント

●中間期　売上高：1,790億円（前年同期比+9.0%）

・第1四半期に続き、全地域で増収。日本が堅調に推移したほか、アジア・ヨーロッパが成長を牽引
・米国では目薬の出荷が減少したものの、アメリカ地域全体では増収を確保

●中間期 営業利益：209億円（前年同期比+8.5%）

・米国は減益となったものの、アジア・ヨーロッパの増収効果と日本の収益性改善が増益に寄与
・ロート単体では肌ラボの価格改定等により原価率が改善し、利益成長に貢献

●通期業績予想：据え置き

・通期見通しは売上3,723億円(前期比+8.3%)、営業利益450億円(前期比+9.4%)で据え置き
・地域別売上ではアジアを上方修正、アメリカは目薬出荷減少の影響により下方修正

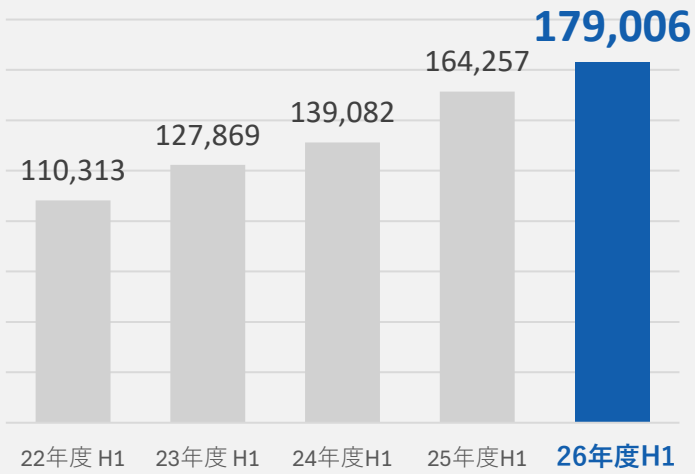
H1 連結業績ハイライト(4-9月)

売上高、営業利益ともに堅調に推移、中間期売上高は過去最高を更新

	2025年度 H1		2026年度 H1						(百万円)
	金額	売上比(%)	金額	売上比(%)	前期比(%)	為替影響	通期見込	進捗率	
売上高	164,257	100.0	179,006	100.0	9.0	+8,333	372,300	48.1%	
営業利益	19,317	11.8	20,953	11.7	8.5	+889	45,000	46.6%	
経常利益	24,609	15.0	21,845	12.2	▲11.2	-	47,400	46.1%	
EBITDA	27,395	16.7	30,071	16.8	9.8	-	63,700	47.2%	

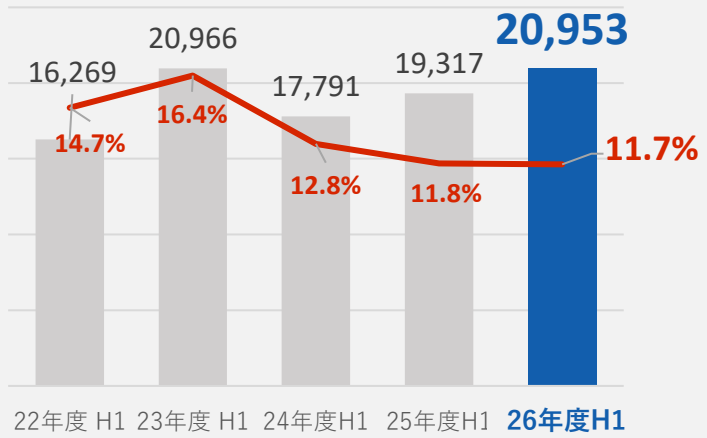
売上高
(中間期)

(百万円)



営業利益
(中間期)

(百万円)



H1 連結業績(4-9月)

売上高 1,790億円 | 前期比+9.0% | 過去最高更新
営業利益 209億円 | 前期比+8.5%

アジア・ヨーロッパの増収効果に加え、日本は「肌ラボ」の価格改定等による原価率改善が増益に寄与

	2025年度 H1		2026年度 H1 (百万円)					
	金額	売上比(%)	金額	売上比(%)	前期比(%)	為替影響	通期見込	進捗率
売上高	164,257	100.0	179,006	100.0	9.0	+8,333	372,300	48.1%
売上総利益	91,183	55.5	99,562	55.6	9.2			
販管費	71,865	43.8	78,608	43.9	9.4			
販促費	9,724	5.9	10,933	6.1	12.4			
広告費	18,476	11.2	19,608	11.0	6.1			
研究開発費	6,688	4.1	6,953	3.9	4.0			
その他	36,975	22.5	41,113	23.0	11.2			
営業利益	19,317	11.8	20,953	11.7	8.5	+889	45,000	46.6%
経常利益	24,609	15.0	21,845	12.2	▲11.2	-	47,400	46.1%
親会社株主に帰属する中間純利益	17,652	10.7	16,498	9.2	▲6.5			
EBITDA	27,395	16.7	30,071	16.8	9.8	-	63,700	47.2%
為替（ドル/円）	146.25		159.75					
為替（元/円）	20.47		23.05					

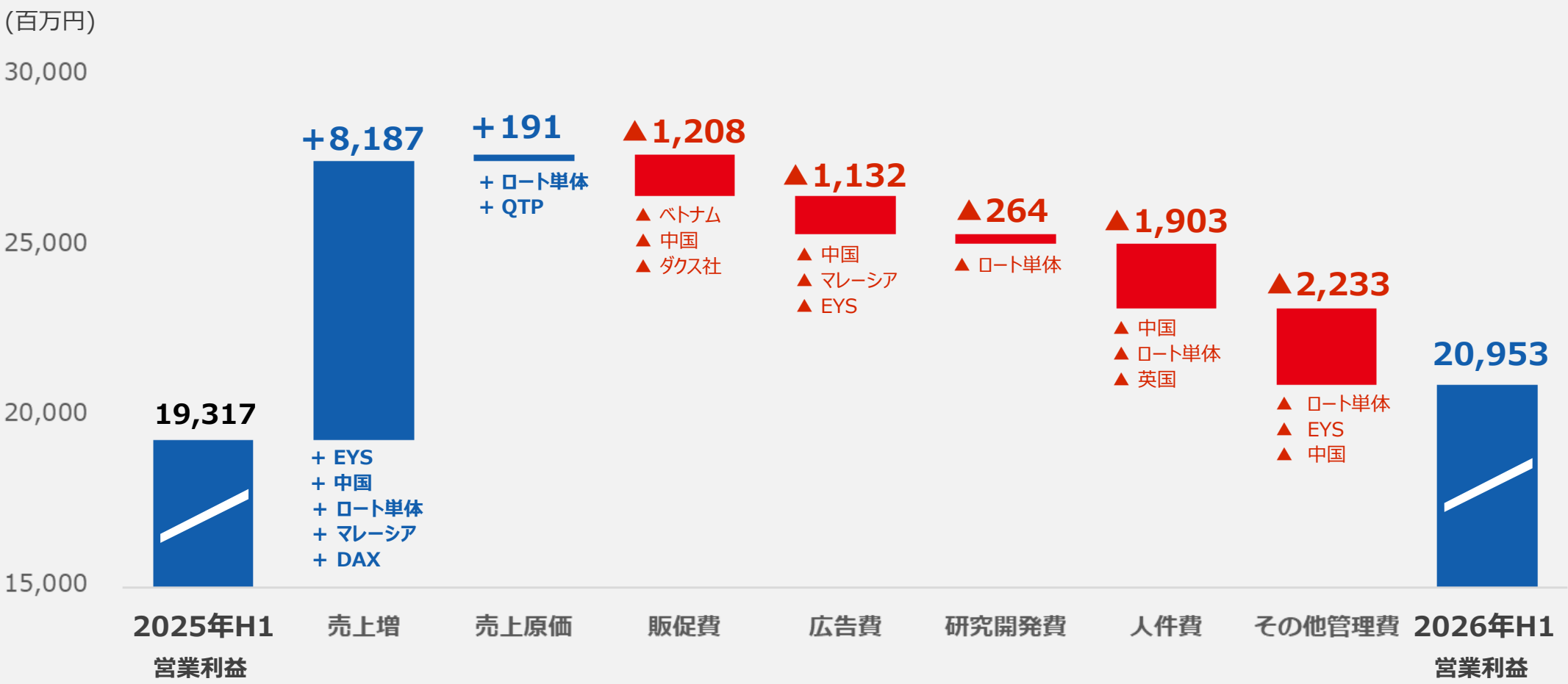
主な増減要因

売上影響
・EYS,ロート単体,中国,ベトナム,マレーシア等の売上増
・為替影響：+83億円

営業利益影響
・為替影響：+8.8億円
・売上増の影響：+81億円
・人件費の影響：▲19億円
原価率：0.1pt改善
・原価影響：+1.9億円

一時要因
・米国目薬出荷減：前期比売上▲6.7億円

H1 営業利益増減の要因(前年同期比)



H1 売上 | 事業×地域セグメントマトリックス



日本

・アイケア増収　：　若者用目薬・高額目薬などが好調
・スキンケア増収　：　「肌ラボ」、「ケアセラ」、「オバジ」等が好調
・内服・食品増収　：　サプリメント「ロートV5」好調、天藤も増収
・メディカル増収　：　天藤製薬、QTP、ロートニッテンが増収



アメリカ

・アイケア減収　：　米国の目薬出荷減少により減収
・スキンケア増収　：　米国OEM、ブラジルでの肌ラボ好調
・メディカル増収　：　オフサルモス社、ハイドロックス社増収



アジア

・アイケア増収　：　中国、香港、ベトナムなどが増収
・スキンケア増収　：　マレーシア、インドネシア、ベトナム等が増収
・内服・食品増収　：　EYSが好調に推移



ヨーロッパ

・アイケア増収　：　モノ社が増収、中東向けが減収
・スキンケア増収　：　ダクス社、南アフリカ、英国が大幅増収
・メディカル減収　：　モノ社の減収

	日本		アジア		アメリカ		ヨーロッパ		その他		海外計		合計	
	（百万円）	前期比(%)	（百万円）	前期比(%)	（百万円）	前期比(%)	（百万円）	前期比(%)	（百万円）	前期比(%)	（百万円）	前期比(%)	（百万円）	前期比(%)
アイケア	**11,737**	5.4	**8,648**	17.8	**639**	▲51.2	**259**	17.4	**114**	101.9	**9,662**	8.2	**21,399**	6.6
スキンケア	**47,862**	1.9	**36,648**	18.6	**6,920**	5.4	**10,142**	20.1	**1,748**	21.0	**55,460**	17.1	**103,322**	9.6
内服・食品	**12,195**	6.0	**18,282**	14.2	**43**	173.8	**125**	170.0	**216**	7.2	**18,667**	14.7	**30,863**	11.1
メディカル	**13,175**	1.9	**2,112**	15.7	**2,379**	23.5	**1,064**	▲6.8	-	-	**5,557**	13.5	**18,733**	5.1
その他	**1,099**	8.3	**1,467**	15.4	**362**	24.4	**1,758**	4.7	-	-	**3,587**	10.7	**4,687**	10.1
合計	**86,070**	3.0	**67,160**	17.1	**10,344**	2.3	**13,351**	15.7	**2,078**	22.0	**92,935**	15.2	**179,006**	9.0
通期予想(修正前)	174,400	3.0	142,900	14.0	22,600	4.9	28,200	18.0	4,200	15.7	197,900	13.5	372,300	8.3
進捗率(%)	49.4		47.0		45.8		47.3		49.5		47.0		48.1	

H1 営業利益 | 地域セグメント別



日本

・ロート単体は「肌ラボ」の値上げ及び原価率改善により増益
・天藤製薬は広告費増加等により小幅減益
・ロートニッテンは薬価改定の影響による原価率上昇により減益
・QTPは生産量の増加による粗利改善により増益



アメリカ

・米国は目薬出荷減少により大幅減益
・ハイドロックス社は原材料高騰に伴う原価率の上昇で減益
・オフサルモス社は生産設備の更新による一時的な原価率上昇により減益



アジア

・マレーシア、インドネシア、タイなどで増益
・EYSは売上増の影響で大幅増益
・中国は増収になったものの、広告費の増加により減益
・ミャンマーは輸入ライセンス取得による正常化で大幅増益



ヨーロッパ

・メンソレータムUKは中東情勢の影響により出荷が減少したものの消炎鎮痛剤の生産・出荷が正常化したことで増益
・ダクス社は「Hadalabo Tokyo」の好調により大幅増益
・モノ社は原価率改善により増益

（百万円）	2025年度 H1	営業利益率（%）	2026年度 H1	対前年（%）	営業利益率（%）	通期予想（修正前）	進捗率（%）
日本	**11,061**	13.2	**11,943**	8.0	13.9	23,400	51.0
アジア	**7,139**	12.4	**8,025**	12.4	11.9	17,300	46.4
アメリカ	**428**	4.2	**▲ 403**	-	-	1,200	-
ヨーロッパ	**225**	2.0	**717**	218.5	5.4	1,700	42.2
その他	**118**	7.0	**153**	29.3	7.4	500	30.7
調整額	**345**	-	**518**	50.2	-	900	57.6
合計	**19,317**	11.8	**20,953**	8.5	11.7	45,000	46.6

売上高 860億70百万円 | 前期比+3.0% (増減額+25.1億円)
営業利益 119億43百万円 | 前期比+8.0% (増減額+8.8億円)

売 上

・サプリメント「ロートV5」や若者用目薬、高額目薬などアイケアが好調に推移
・「肌ラボ」、「ケアセラ」、「Gyutto」、「オバジ」が好調に推移
・QTPは受注増により堅調に推移し、増収
・ロートニッテンはコンタクトレンズ事業の伸長により増収に寄与
・天藤製薬のECの拡大、価格改定、プレミアム新製品の発売等により増収

営業利益

・ロート単体は「肌ラボ」の価格改定などにより売上原価率が改善
・QTPは生産量の増加による粗利改善により増益
・ロートニッテンは薬価改定の影響により売上原価率が上昇し、大幅減益
・天藤製薬は広告費の増加等により小幅減益

2026年4月出荷分より
全品値上げ実施





「Gyutto
コルセット
ヘアミルク」
2026年9月全国発売

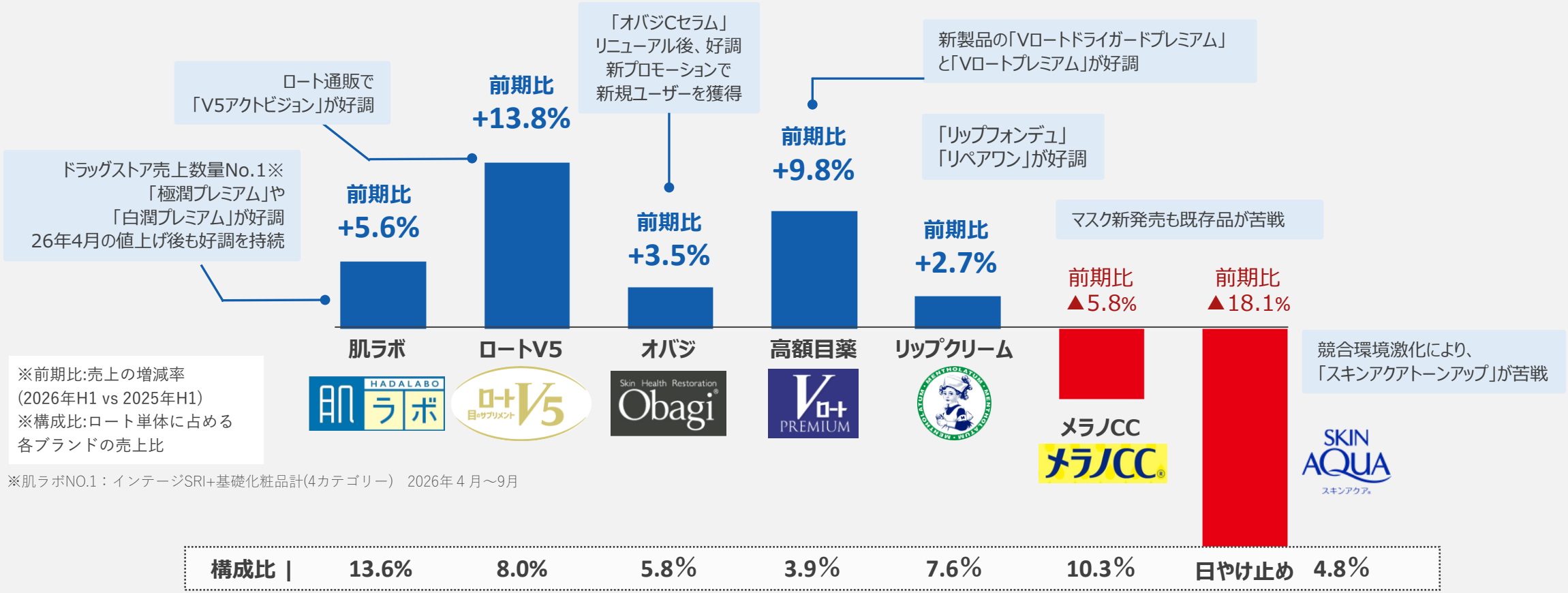


「ロートV5
アクトビジョン」
好調

ボラギノールプレミアムシリーズ
好調に推移



主要ブランドが好調に推移、日やけ止めは苦戦



※肌ラボNO.1：インテージSRI+基礎化粧品計(4カテゴリー)　2026年４月～9月

売上高 671億60百万円 | 前期比+17.1% (増減額+98.1億円)
営業利益 80億25百万円 | 前期比+12.4% (増減額+8.8億円)

売上

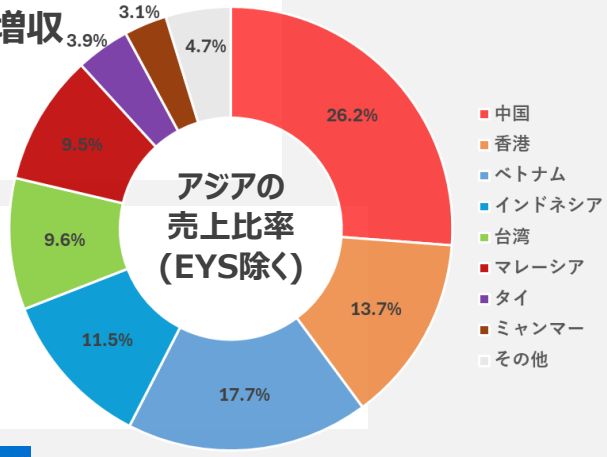
為替の影響
+53.8億円

- EYS、中国、ベトナム、マレーシア、インドネシアなどアジア全般で好調に推移
- 中国は「アイケア」、「アクネス」が販促施策等により好調に推移し大幅増収
- ベトナムは「肌ラボ」、「日やけ止め」、「アクネス」が好調に推移し、大幅増収
- マレーシアはスキンケア習慣の定着により、引き続き「肌ラボ」が好調に推移し、大幅増収
- インドネシアは「肌ラボ」、「アクネス」が引き続き好調
- ミャンマーは輸入ライセンス取得による事業の正常化を背景に大幅増収

営業利益

為替の影響
+7.6億円

- マレーシア、インドネシアなど東南アジアで引き続き好調に推移し、増益に寄与
- ミャンマーは輸入ライセンス取得によるオペレーションの正常化で大幅増益
- 中国は大幅増収も、広告費の増加により減益





マレーシアで
肌ラボが2桁成長

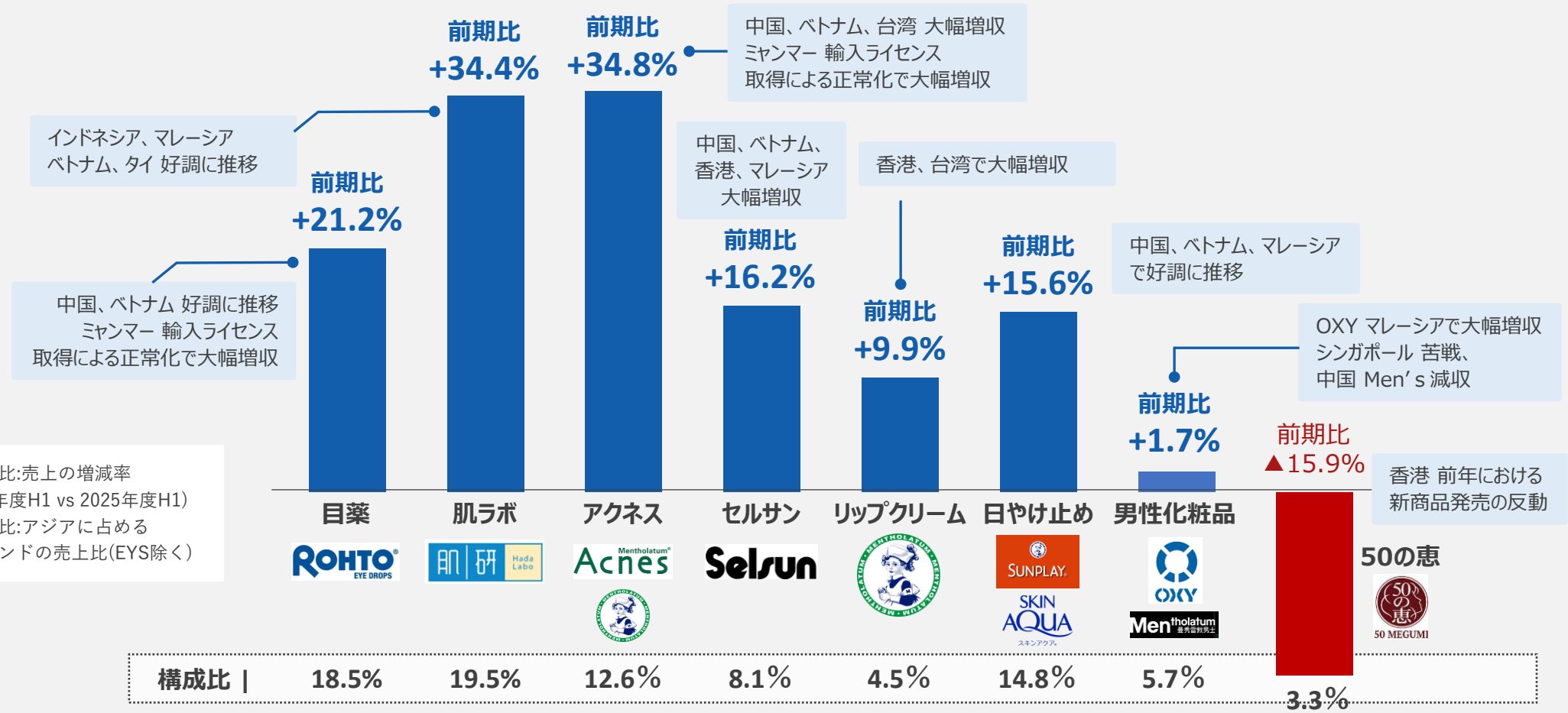


タイでは
新発売の
目薬が好調



アジアで、「肌ラボ」が
若年層の顧客獲得に向けて
新たなイメージキャラクターを
起用し各種キャンペーンを展開

肌ラボ、アクネス、目薬など主要ブランドが好調に推移



※前期比:売上の増減率
(2026年度H1 vs 2025年度H1)
※構成比:アジアに占める
各ブランドの売上比(EYS除く)

| 地域セグメント別 | H1 EYS | 大幅増収･大幅増益

売上高 193億25百万円 | 前期比+13.8% (増減額+23.3億円)
営業利益 16億34百万円 | 前期比+19.1% (増減額+2.6億円)

為替の影響
+18.1億円

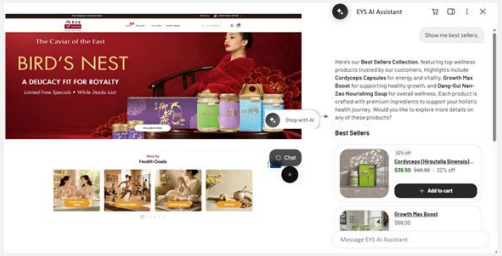
売 上

・マレーシアは旧正月の売上が好調に推移した影響で大幅増収(前期比+2桁%)
・香港は現地通貨では減収も円貨ベースで小幅増収 (前期比＋1桁前半%)
・シンガポールは現地通貨では微減、為替の影響で増収を確保 (前期比+1桁後半%)

為替の影響
+1.4億円

営業利益

・増収に伴う売上総利益の拡大により、営業利益は大幅に増加
・一般管理費の効率化に向けた取り組みが増益に寄与
・EYSの営業利益は16.3億円となり、連結で計上する買収関連償却費13.4億円を上回る
・EYS のれん償却(8.5億円)、商標権その他無形固定資産の償却費(4.9億円)



海外向け通販サイトの
UX/UIをアップデート



シニア層を
ターゲットとした
販促活動(香港)



春節商戦における
プロモーションを強化し、
ブランド露出を拡大

| 地域セグメント別 | H1 アメリカ | 増収も営業赤字

売上高 103億44百万円 | 前期比+2.3% (増減額+2.4億円)
営業利益 ▲4億03百万円 | 前期比▲194.3% (増減額▲8.3億円)

為替の影響
+10.2億円

売上

・米国の目薬出荷減少の影響があったものの、為替の影響に加え、ブラジルでの「肌ラボ」の好調やオフサルモス社の増収により、アメリカ全体では増収を確保
・米国メンソレータム社は目薬の出荷減少の影響で減収 (前期比▲1桁半ば%)
・ハイドロックス社は現地通貨ベースでは減収となったものの、円換算後では前年並み
・ブラジルのオフサルモス社は眼科向け製品が堅調に推移し増収 (前期比+2桁%)
・メンソレータムブラジル社は「肌ラボ」が好調に推移し、増収に寄与 (前期比+2桁%)

為替の影響
▲0.4億円

営業利益

・米国で目薬の出荷減少の影響と原材料費や燃料費の高騰等により、原価率が上昇し営業赤字
・米国メンソレータム社は目薬の出荷減少の影響で大幅減益
・ハイドロックス社は原材料高騰による原価率の悪化により減益
・オフサルモス社は主要生産設備の更新による一時的な原価率の上昇により減益



ハイドロックス社の
医療機関向け消毒剤



「肌ラボ」は
ブラジルオンラインストアを活用し
高成長を持続

売上高 133億51百万円 | 前期比 +15.7% (増減額+18.1億円)
営業利益 7億17百万円 | 前期比+218.5% (増減額+4.9億円)

為替の影響
+15.7億円

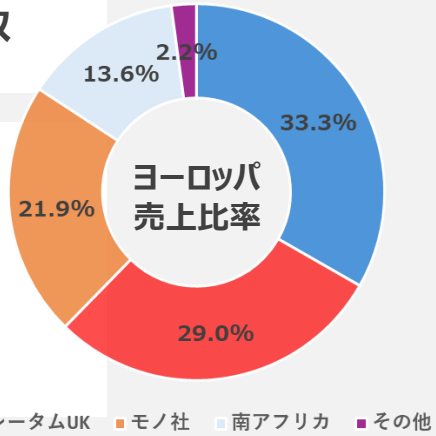
売上

・ダクス社は「Hadalabo Tokyo」、「YOSKINE」の好調継続により大幅増収(前期比+2桁%)
・南アフリカは消炎鎮痛剤、「セルサン」の好調により大幅増収(前期比＋2桁%)
・メンソレータムUKは消炎鎮痛剤の出荷回復が中東情勢による出荷への影響を吸収し、増収
・モノ社は市況悪化に伴う受託生産の減少により、現地通貨ベースでは減収、円換算後では増収

為替の影響
+1.0億円

営業利益

・ダクス社は高価格帯製品の売上増と生産効率化により原価率が改善し、大幅増益
・メンソレータムUKは消炎鎮痛剤の出荷の正常化により原価率が改善し、大幅増益
・南アフリカは増収効果により大幅増益





ダクス社において、6月の天候を
追い風に日やけ止めが好調に推移



「Hadalabo Tokyo」は
引き続き好調を維持



ダクス社 エイジングラインの
「YOSKINE LONGEVITY」が好調

2027年3月期 業績予想
(2026年4月-2027年3月)

代表取締役社長　瀬木 英俊

2027年3月期　業績予想のポイント

●2027年3月期の通期予想は「据え置き」
売上高、営業利益、当期純利益*はいずれも過去最高を更新する見通し

※親会社株主に帰属する当期純利益

●通期売上高予想：3,723億円 (前期比+8.3%)

・アジア及びヨーロッパの高い成長を背景に、過去最高の売上高を更新する見通し
・日本はスキンケア、内服が堅調に推移する見通し
・アメリカは目薬の出荷減少を踏まえ、売上高予想を下方修正

●通期営業利益予想：450億円 (前期比+9.4%)

・アジア・ヨーロッパの増益効果に加え、日本の収益性改善が寄与し、米国の減益影響を吸収
・ロート単体では肌ラボの値上げ等の影響により原価率が改善
・アメリカは米国目薬の出荷減少、ハイドロックス社、オフサルモス社の原価率上昇により、見通しを下方修正

●配当：中間配当25円、期末配当25円 年間50円　変更なし

・23期連続増配予定(変更なし)、配当性向31.9%を予定

2027年3月期の通期業績予想は据え置き
売上高、営業利益、当期純利益*はいずれも過去最高を更新する見通し

※親会社株主に帰属する当期純利益

・売上高3,723億円(前期比＋8.3%)、営業利益450億円(同＋9.4%)を見込み、いずれも過去最高を更新する計画
・アジア・ヨーロッパの好調な推移や日本の収益性改善が、アメリカの減益影響を吸収
・アメリカでは目薬の出荷減少の影響を織り込む
・米国の通商政策や中東情勢、原材料価格・為替動向など、事業環境の不確実性を引き続き注視

	2026年度 H1		2025年度	2026年度通期予想			
(百万円)	売上	進捗率 (%)	通期実績	通期予想	構成比(%)	前期比 (%)	対前増減
売上高	179,006	48.1	343,725	372,300	100.0	8.3	28,575
営業利益	20,953	46.6	41,118	45,000	12.1	9.4	3,882
経常利益	21,845	46.1	47,971	47,400	12.7	▲1.2	▲571
親会社株主に帰属する当期純利益	16,498	46.9	34,247	35,200	9.5	2.8	953
EBITDA	30,071	47.2	58,496	63,700	17.1	8.9	5,204
1株当たり当期純利益	73.08	46.7	151.56	156.50			
為替（ドル/円）	159.75		149.99	158.00			
為替（元/円）	23.05		20.82	23.00			

地域セグメント別の通期売上高予想を見直し

・日本はクオリテックファーマ、ロート単体、天藤の堅調な売上推移を踏まえ、通期売上高予想を上方修正
・アジアでは、EYSが当初想定を下回る一方、その他の地域では好調な推移を見込み、上方修正
・アメリカはブラジルで「肌ラボ」が好調に推移する一方、米国における目薬の出荷減少の影響を踏まえ下方修正
・ヨーロッパの通期売上高予想は変更なし

	2026年度 8/6 公表 通期予想		2025年度	2026年度通期予想			
（百万円）	通期予想（A）	構成比(%)	実績	通期予想（B）	構成比(%)	前期比(%)	修正額（B－A）
売上高	372,300	100.0	343,725	372,300	100.0	8.3	変更なし
日本	174,400	46.8	169,326	174,900	47.0	3.3	500
アジア	142,900	38.4	125,327	143,300	38.5	14.3	400
アメリカ	22,600	6.1	21,553	21,400	5.7	▲0.7	▲1,200
ヨーロッパ	28,200	7.6	23,889	28,200	7.6	18.0	変更なし
その他	4,200	1.1	3,628	4,500	1.2	24.0	300
為替（ドル/円）	158.00		149.99	158.00			
為替（元/円）	23.00		20.82	23.00			

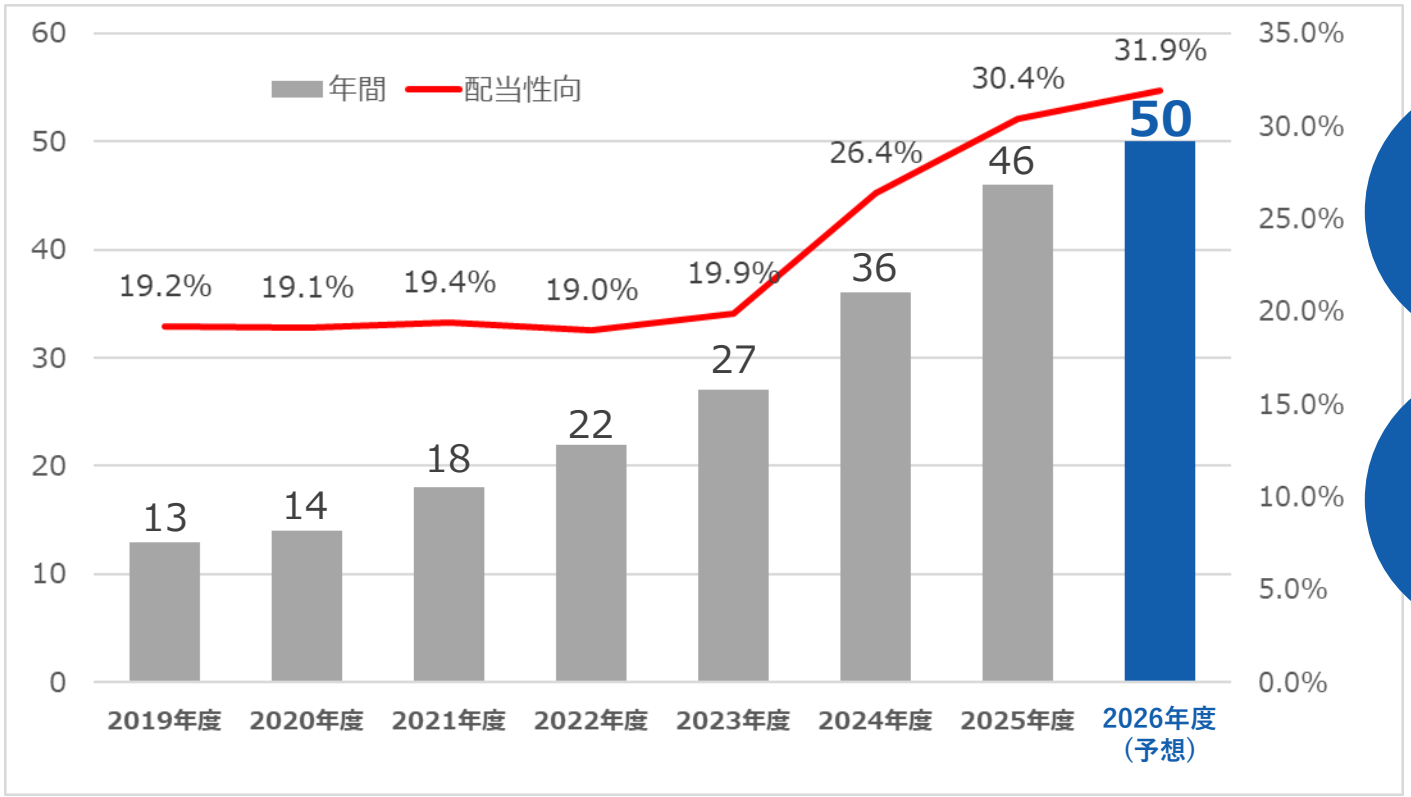
地域セグメント別の通期営業利益予想を見直し

・日本は増収効果に加え、ロート単体での「肌ラボ」、目薬の価格改定による原価率改善により上方修正
・アジアはEYSが当初想定を下回るものの、中国や東南アジアを中心とした増収効果により、上方修正
・アメリカでは、米国における目薬の出荷減少に加え、ハイドロックス社の原材料費・燃料費の高騰が利益を圧迫
・ヨーロッパは、ポーランドのダクス社における増収効果と原価率改善が増益に寄与
・その他管理費の増加は、主に中国の人件費やロート単体のオバジ商標権関連費用などの増加によるもの

	2026年度 8/6 公表 通期予想		2025年度	2026年度通期予想			
（百万円）	通期予想（A）	構成比(%)	実績	通期予想（B）	構成比(%)	前期比(%)	修正額（B－A）
営業利益	45,000	100.0	41,118	45,000	100.0	9.4	変更なし
日本	23,400	52.0	22,126	23,900	53.1	8.0	500
アジア	17,300	38.4	15,048	17,600	39.1	17.0	300
アメリカ	1,200	2.7	1,705	300	0.7	▲82.4	▲900
ヨーロッパ	1,700	3.8	1,007	1,700	3.8	68.8	変更なし
その他	500	1.1	383	600	1.3	56.3	100
調整額	900	2.0	846	900	2.0	6.3	変更なし
為替（ドル/円）	158.00		149.99	158.00			
為替（元/円）	23.00		20.82	23.00			

中間配当25円、期末配当25円　年間50円 (変更なし)

(配当性向31.9%を予定)　※2026年自己株式の取得（30億円）を2026年9月14日に終了



配当性向
30%
以上

DOE
3.5%
以上

【株主還元方針】一時的な利益の変動に左右されず、継続的・安定的な増配を行う

中長期成長戦略2026を発表

変化が激しく不確実な時代だからこそ、業績見通し等を定期的に見直すローリング方式で策定

経営基盤の強化

1．価格改定
直近1年間で２度の価格改定を行い、着実に成果あり
今後も国内外で、価格改定に取り組む





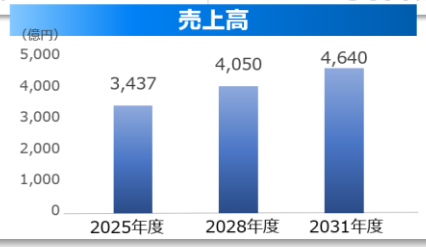
2．生産効率の強化
原材料の高騰に伴う原価率上昇を抑えるため、
生産SKUの最適化、内製化シフトを実施

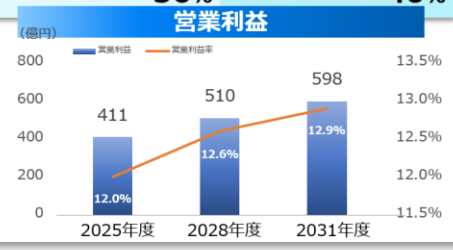
3．人的資本強化
当社の人事制度、研修を含めた社員への投資を高め、
生産性の向上を目指す

中長期成長戦略2026　アップデート

2031年度　売上高　4,640億円　営業利益598億円

	2025年度	2028年度	2031年度
売上高	3,437億円	4,050億円	4,640億円
営業利益	411億円	510億円	598億円
営業利益率	12.0%	12.6%	12.9%
EBITDAマージン	17.0%	17.7%	18.1%
海外売上比率	51%	54%	56%
配当性向	30.4%	36%	40%





※詳細は当社IRページ「中長期成長戦略2026」をご覧ください。

香港政府の戦略企業パートナーに認定。香港を起点にアジアでの成長戦略を加速

・香港政府の戦略企業誘致機関(OASES)と戦略企業パートナー協定を締結
・ヘルスケア・メディカル領域での実績と、香港を含むアジアでの中長期的な価値創造への取り組みが評価
・香港を戦略的な事業・共創拠点と位置づけ、現地との連携を通じてアジアの人々の健康と豊かな暮らしに貢献

香港政府との本提携は日本企業として初



香港を起点にアジアでの成長戦略を加速



※香港政府OASES戦略企業パートナーは、香港をアジアのイノベーション・研究開発・ビジネスの拠点として発展させるために、香港政府が選定した企業に対して、香港への進出や事業拡大を個別に支援する制度。2022年10月のスタートを皮切りに、140社以上の企業が認定を受けている。

ロートグループ一体となったサステナビリティ推進とガバナンス強化

・国内外グループ各社が参加する『グローバルサステナビリティミーティング』を開催し、重要課題の共有と取り組みを推進
・統合報告書「ROHTO Well-being Report 2026」を発行し、価値創造ストーリーを発信
・監督機能を強化すべく、独立社外取締役のみでの任意の検討会を新設



グローバルサステナビリティ ミーティング開催



ROHTO Well-being Report 2026



独立社外取締役　検討会の新設

直近に取得した子会社およびブランドは順調な立ち上がり
下期より業績予想に織り込み

取得ブランド

Pain Away(ペイン アウェイ)

譲渡元

Wellnex Life Limited

ブランド | 1999年にオーストラリアで誕生した外用消炎鎮痛剤ブランド

契約締結日 | 2026年8月6日

契約内容 | ブランドに関する事業権、知的財産権を取得

最新情報

9月にはPain Awayブランドの継承を完了し、10月よりブランド事業の運営を開始。立ち上がりは計画を上回り順調なスタート



下半期(9月～翌年2月)の売上、営業利益は通期業績予想に織り込み済

豪州市場第3位の外用鎮痛ブランド

名称

Magic Cod d.o.o.(マジック コッド)

所在地

セルビア共和国

事業内容 | 化粧品・雑貨の輸入販売およびマーケティング

持分譲渡実行日 | 2026年7月8日

販売国 | セルビア、クロアチアなどのバルカン半島地域に加え、イタリア、スペイン、北欧地域等に販売・取引ネットワーク

最新情報

精力的な営業活動により計画を上回る立ち上がり



下半期(7月～12月)の売上、営業利益は通期業績予想に織り込み済



化粧品・雑貨の輸入販売およびマーケティングに強み

ロート製薬の最先端技術「フィトエクソソーム」
来春、マスセルフブランドに展開

新たな研究領域であるフィトエクソソーム技術
細胞研究による新技術

受賞

IFSCC
TOP10 Finalistに選出

IFSCC 2026
Podium Fundamental Research
Top 10 Finalist

子会社化

Nature Oriented Innovation Company
OP Bio Factory

オーピーバイオ子会社化

発足



フィトエクソソーム研究会 発足

マスセルフブランドへの実装
独自技術を活用した製品をより多くのお客様へ届ける

製品実装

肌ラボ HADALABO®

メラノCC®

Obagi®

※当社は東京医科大学　落谷孝広先生のご指導のもと、フィトエクソソーム研究を推進してきました。

発売に先駆けてフィトエクソソーム技術専用サイトを開設

専用サイト




ROHTO

APPENDIX

2026年度セグメント別売上マトリックス | 通期予想



日本

・アイケア　：花粉目薬出荷減少も目薬価格改定により増収
・スキンケア　：肌ラボの値上げ効果等
・内服・食品　：V5 増収、エピステームドリンク 減収を見込む
・メディカル　：QTP、ニッテン、天藤が好調



海外

・アイケア　：米国目薬出荷減の影響
・スキンケア　：東南アジアが成長をけん引する見込み
・内服・食品　：EYSは足元の市況により下方修正
・メディカル　：ハイドロックス社の影響

	2026年度8/6公表値		2026年度通期予想								
	日本計	海外計	日本計			海外計			合計		
（百万円）	売上高	売上高	売上高	前期比(%)	修正額	売上高	前期比(%)	修正額	売上高	前期比(%)	修正額
アイケア	25,400	20,800	25,600	0.2	200	19,800	▲ 0.2	▲ 1,000	45,400	0.0	▲ 800
スキンケア	94,800	121,100	95,000	3.8	200	122,400	16.1	1,300	217,400	10.4	1,500
内服・食品	24,000	36,800	23,800	4.4	▲ 200	36,000	14.1	▲ 800	59,800	10.0	▲ 1,000
メディカル	28,100	11,600	28,300	3.5	200	11,800	10.0	200	40,100	5.3	400
その他	2,100	7,600	2,200	3.4	100	7,400	7.7	▲ 200	9,600	6.7	▲ 100
合計	174,400	197,900	174,900	3.3	500	197,400	13.2	▲ 500	372,300	8.3	0

各国の売上高成長率(現地通貨ベース)

インドネシア、マレーシアが高成長を維持

	2026年3月期 (前年同期比)					2027年3月期(前年同期比)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q
ロート単体	+1桁前半	+1桁半ば	▲1桁半ば	+1桁後半	+1桁前半	+1桁半ば	+1桁前半
中国	▲1桁前半	+1桁前半	+1桁半ば	+1桁前半	+1桁前半	+1桁後半	+1桁半ば
香港	+1桁前半	+1桁半ば	▲1桁前半	+1桁半ば	+1桁前半	▲1桁後半	+1桁前半
台湾	+10%台前半	+1桁前半	+1桁半ば	+1桁前半	+1桁半ば	+1桁半ば	▲1桁前半
ベトナム	+10%台前半	+10%台前半	+10%台半ば	+10%台半ば	+10%台前半	+20%台前半	+1桁後半
インドネシア	+30%台半ば	+20%台半ば	+1桁半ば	+10%台後半	+20%台前半	+10%台半ば	+20%台前半
マレーシア	-	-	-	-	-	+10%台半ば	+20%台前半

※マレーシアの2025年3月期はシンガポールの売上を含むため、2026年3月期の成長率は非開示
※EYSの売上除く

Q2 連結損益（7-9月実績）

（百万円）	2025年度 Q2		2026年度 Q2		
	金額	売上比(%)	金額	売上比(%)	前期比(%)
売上高	82,292	100.0	87,382	100.0	6.2
売上総利益	45,330	55.1	47,968	54.9	5.8
販管費	37,711	45.8	40,678	46.6	7.9
販促費	5,405	6.6	5,962	6.8	10.3
広告費	10,537	12.8	10,557	12.1	0.2
研究開発費	3,302	4.0	3,588	4.1	8.7
その他	18,466	22.4	20,569	23.5	11.4
営業利益	7,618	9.3	7,290	8.3	▲4.3
経常利益	8,481	10.3	7,353	8.4	▲13.3
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,883	7.1	5,847	6.7	▲0.6
EBITDA	11,609	14.1	11,912	13.6	2.6

Q2 売上･営業利益 | 事業×地域セグメント（7-9月実績）

Q2 売上 | 事業x地域セグメント（7-9月）

	日本		アジア		アメリカ		ヨーロッパ		その他		海外計		合計	
	（百万円）	前期比(%)	（百万円）	前期比(%)	（百万円）	前期比(%)	（百万円）	前期比(%)	（百万円）	前期比(%)	（百万円）	前期比(%)	（百万円）	前期比(%)
アイケア	6,012	2.5	4,203	▲1.9	87	▲88.5	176	0.4	53	▲4.9	4,521	▲14.3	10,533	▲ 5.5
スキンケア	24,016	▲1.8	18,774	22.4	3,251	4.0	5,019	12.1	984	38.0	28,030	18.5	52,046	8.2
内服・食品	5,974	8.7	6,761	7.7	20	121.8	79	264.9	35	▲59.6	6,896	7.8	12,871	8.2
メディカル	6,617	2.2	1,091	34.7	1,335	30.7	516	▲13.1	0	-	2,944	21.3	9,562	7.4
その他	583	15.1	723	▲19.0	184	24.8	875	25.7	0	-	1,783	2.6	2,367	5.5
合計	43,206	0.9	31,555	14.3	4,879	▲3.6	6,667	11.8	1,074	25.2	44,175	11.9	87,382	6.2

Q2 営業利益 | 地域セグメント別（7-9月）

	2025年度Q2	営業利益率（%）	2026年度 Q2	前期比（%）	営業利益率（%）
日本	4,750	11.1	5,075	6.9	11.7
アジア	2,361	8.6	2,349	▲ 0.5	7.4
アメリカ	243	4.8	▲ 629	▲ 358.2	-
ヨーロッパ	90	1.5	52	▲ 41.7	0.8
その他	44	5.2	115	158.7	10.7
調整額	127	-	327	156.7	-
合計	7,618	9.3	7,290	▲ 4.3	8.3

広告・研究開発・資本的支出・減価償却費の推移

研究開発費は連結売上高の4.3%の予定

広告費・研究開発費

(百万円)

	2024年度 H1	2025年度 H1	2026年度 H1	増減額	2024年度通期	2025年度通期	2026年度通期予想
広告費	18,009	18,476	19,608	1,132	39,224	40,942	43,400
売上比	12.9%	11.2%	11.0%	-	12.7%	11.9%	11.7%
研究開発費	8,143	6,741	7,009	267	14,995	13,861	15,900
売上比	5.9%	4.1%	3.9%	-	4.9%	4.0%	4.3%

資本的支出・減価償却費・のれん償却費

(百万円)

	2024年度 H1	2025年度 H1	2026年度 H1	増減額	2024年度通期	2025年度通期	2026年度通期予想
設備投資額	5,167	6,533	10,485	3,951	15,070	16,665	21,800
減価償却費	4,267	7,071	8,020	948	12,096	15,329	16,600
のれん償却費	178	1,006	1,097	91	1,205	2,048	2,100

※設備投資額には、有形固定資産、無形固定資産および使用権資産への投資を含み、企業結合、事業譲受、ブランド・商標権等の取得に伴う取得・認識額を除いています。
※減価償却費はのれん償却額を除く

■眼科領域

開発品	対象疾患	現在の開発方針
ROH-101	・サイトメガロウイルス角膜内皮炎 ・単純ヘルペスウイルス角膜炎	・2026年4月に薬事申請、薬事審査が予定通り進行中 ・承認申請に向けて当局相談中
ROH-201	・春季カタル ・ドライアイ	・第2相試験が終了し、第3相試験の準備中 ・第2相試験が終了し、開発計画を検討中
ROH-001	・近視進行抑制	・第2相試験が計画通り進行中

■再生医療

開発品	対象疾患	現在の開発方針
ヒト脂肪由来幹細胞	・重症心不全	・国内第2相試験が計画通り進行中
	・腎疾患	・効果が期待できる対象患者集団を特定し、開発継続
	・肝硬変、重症下肢虚血、肺線維症	・これまでに得られた治験データを踏まえ、導出含め検討中
ヒト臍帯由来幹細胞	・神経変性疾患	・これまでに得られた治験データを踏まえ、導出含め検討中
自家軟骨細胞	・外傷性膝軟骨欠損	・薬事申請準備中
他家軟骨細胞	・変形性膝関節症の軟骨欠損	・第2相試験が進行中

営業キャッシュフローの拡大を図り、さらなる企業価値向上に向け、成長投資を中心にキャッシュを配分

インフロー	アウトフロー	資金使途	金額	方針
資金借入 200億円	成長投資	設備投資	1,100億円	・中国アイケア、東南アジアスキンケア生産増強 ・国内生産設備増強
営業CF 3,800億円（研究開発費控除前）		研究開発費	1,000億円	・コアビジネスをより加速させる研究開発投資 ・エクソソームなどの新規有用成分の探索 ・次の柱である再生医療、医療用点眼への投資
		DX/IT投資	350億円	・１人当たりの生産性を高めるDX/IT投資
		M&A等	700億円	・経営基盤強化・事業シナジー・新規分野参入
	株主還元	配当など	850億円	・配当性向30%以上、DOE3.5%以上 ・中長期的な利益成長に合わせて増配 ・安定的・継続的な株主還元を行う ・2030年には配当性向40%を見込む

□ 本資料は、投資判断の参考として、当社の現状を理解して頂くために作成したものです。

□ 本資料に記載された内容は、作成時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

□ 本資料には、医薬品等（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

□ 投資を行う際は、ご自身の判断において行っていただきますようお願いいたします。

□ 本資料を利用することにより生じた、いかなるトラブルおよび損失、損害に対して、当社は一切責任を負いません。


ROHTO